



第 28 号

2013年9月1日発行

藤 沢 市 文 書 館

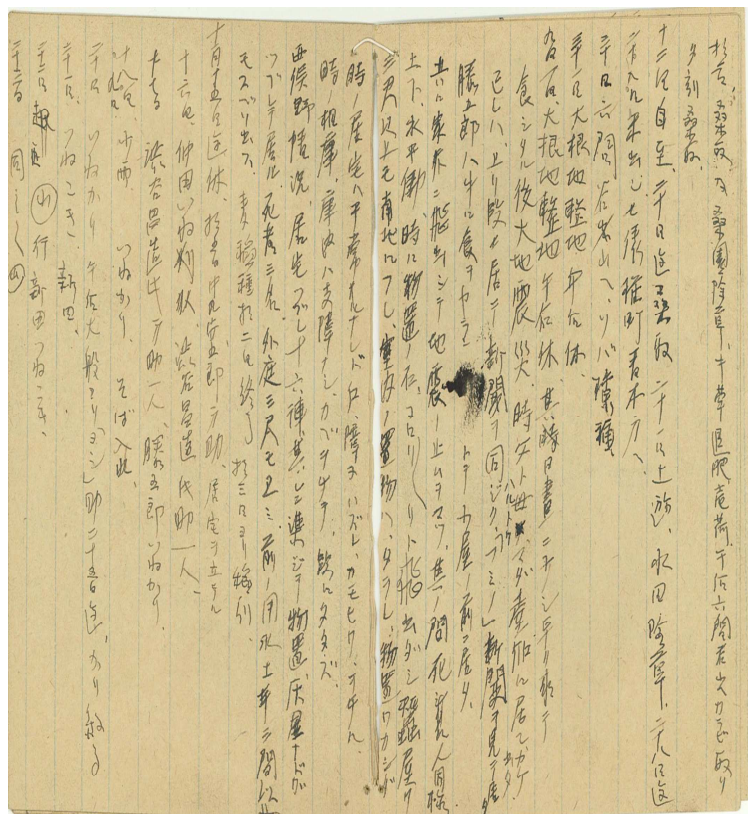
〒251-0054 藤沢市朝日町12-6
TEL 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172

藤沢市文書館

検索

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>

クリック!



九月一日 大根地整地午後休、其日昼三少シ早く成テ
食シタル後大地震災、時父ト母ハマダ台所に居テ、カケ出タ
己レハ、上リ段ニ居テ新聞ヲ、同ジクハルトク「フミノ」新聞ヲ見テ居タ
勝五郎ハ牛ニ食ラヤラントテ小屋ノ前ニ居タ
共に家外ニ飛出シテ地震ノ止ムヲマツ、其ノ間死人同様
上下、水平（ママ）、時ニ物置ノ石、コロリコロリト飛出ダシ蚕屋ワ
三尺以上モ南北ニフレ、室内ノ置物ハタラレ、物置ワカシゲ
時ノ居宅ハ平常ナレド戸、障子ハズレ、カモヒワ、オチル
時ノ相庫、庫内ハ支障ナシ、カベヲチテ、既ニタタス
西俣野情況、居宅ツブレ十六軒、其レニ準ジテ物置、灰屋ナドガ
ツブレテ居ル、死者三名、外庭三尺モ口ミ、前ノ用水土手三間以上
モスベリ出ス（前後略、口部分は不明字）

関東大震災をめぐる記述（中丸家文書）

左上の写真は西俣野の農家の日記の一部で、右上は九月一日の部分を活字に起こしたものです。この家は午前中に大根畑の整地作業を終わらせ、早い食事を済ませた後に地震にみまわれました。そこで家族は屋外に飛び出したのですが、地震が止むのを待つ間「死人同様」の状態でした。また、地震の上下動と水平動が激しく、物置にあった石が転がり出たり、養蚕用の建物が「三尺（約90cm）以上モ南北に」揺れるといった状況でした。なお、西俣野では家の全壊が16戸で、物置なども潰れ、死者3名が出るという被害でした。（中村）

もくじ

関東大震災をめぐる記述	1
亀井野での関東大震災	2

「ふじさわの関東大震災」案内	3
藤沢市内の関東大震災関係碑	4

亀井野での関東大震災

—小倉久武『回顧七十年』の記述から—

★小倉久武と『回顧七十年』

小倉久武は明治28(1895)年に亀井野地区に生まれ、海軍軍人を志望しましたが、家業の染色業を相続するために東京府立織染学校(現・東京都立八王子桑志高等学校)に入学しました。大正2(1913)年に卒業して実家に戻り家業を継ぐかたわらで、村の電化や消防組の改革などにあたりました。戦後、小倉は藤沢市ロータリークラブ会長などを務めました。彼が70歳の時に「後生のものの参考に」記した回顧録が『回顧七十年』になります。この中で震災に関する記述を『藤沢市史料集』36(2012年刊行)に復刻しました。文書館の市民資料室で閲覧できます。また、購入ご希望の方には、市民資料室もしくは市政情報コーナーで販売しています。

★南天の生け垣に子どもがはまり込む

震災時小倉は自宅にいて、その年の4月に生まれたばかりの子どものそばで昼寝をしようとしていましたが、強烈な揺れが続いたので壊れた家の下敷きになることを恐れました。そのため彼は子どもの両肩をつかんで外に放り投げたところ、「南天の生け垣に子どもの顔がはまり込んだ」ほどでした。

幸いにこの子は無事だったため、小倉は妻に子どもを預けた後、村の消防組の責任者として自宅を顧みず奔走し、他の被災者の救出にあたり、各所に起こったばやも全部消し止めました。そして家に帰ってきたとき、自宅のみならず、染色工場や土蔵なども全壊したことがわかりました。しかし奥座敷に寝ていた彼の長男と工場にいた5名の工員は、被災しながらも無事でした。

小倉家ではたまたま半壊だった養蚕室を急遽起こして当座をしのぐことにしましたが、「余震が頻々と来る間は、裏庭に孟宗竹で柱を立てて土間に藁を敷き、その上に簾を敷き蚊帳を吊って寝てい」ました。食料の確保に関しては、小倉の祖母が安政江戸地震を体験した「江戸のお婆さん」から心得として

よく聞かされていたため、「余震と余震の間」に「梅干しや塩、残飯なども持ち出し、その上で「白米を三俵程買い集め」ました。小倉家の穀倉は「鍵をかけてあるまま潰れたので、一ヶ月位は開く事も出来なかった」からです。

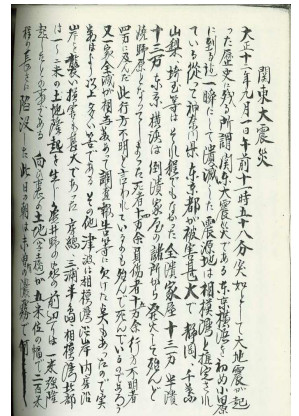
★古釘を伸ばし続ける

鉄道の開通後、他県から「大力を持ち器用であった」義父と義弟が手助けに来てくれたことで、「潰れた家を取り片付け、バラックを建て」ていた小倉家では大助かりだったのですが、毎日が慣れぬ仕事の連続でした。震災後は「建築材料も暴騰し釘などもなかなか買うことが出来ないの、各店から買い集めても間に合わない」状況でした。そのため、小倉家の人々は「取片付けの古材から抜いた釘」を「雨降りの日には、バラックの中で」伸ばし続けました。また、「古材を結束する縄」もなかなか買えず、縄ないなども行わなければなりませんでした。

加えて小倉家では、父親が村会議員であったこともあり、「如何に家が悲惨な状況でも、自家のことばかり考えてはいられ」ず、村を通る道路や用排水路の復旧などに献身的な奉仕を続けたのでした。

★最大の余震で建物全壊

小倉家では震災の翌年1月14日に仮建築4棟を完成させました。しかし一夜明けた朝の6時前に最大の余震が発生し、建物が再び全壊してしまいました。小倉はこの被害について「天運として潔く」諦めて、「休む間なく再建努力を続け」ました。しかし、震災によって「東京横浜が灰燼に帰した」ことで失われた物資は膨大だったため、「諸物価は暴騰し、ものを失ったみじめさに加え、買おうとすれば買う度に値上がりする」なかで、小倉家は「実に苦しい生活」を続けなければなりませんでした。(中村)



小倉久武の回想録

収蔵資料展「ふじさわの関東大震災」のご案内

〔期間〕2013(平成25)年8月5日(月)～9月27日(金)

〔会場〕藤沢市文書館3階 展示室

〔時間〕午前9時～午後5時(土・日・祝日は休館)

今年9月1日は、1923(大正12)年に発生した関東大震災から90年の節目にあたります。2011(平成23)年に発生した東日本大震災の被害は私たちに衝撃を与えましたが、同時に関東地方における過去の地震被害として関東大震災が再び注目されています。

文書館では2011年度も「ふじさわの震災」と題した収蔵資料展を開催し、大きな反響がありました。市民の方々からは、特に地区ごとの被害をより詳しく知りたいとの要望が多く寄せられており、もう一度、関東大震災の展示を行うことといたしました。

震災当時の地域の実態は日記などを分析することで知ることができますが、今回の展示では主に次の3点を分析しながら地域の被害を紹介します。

●仙田四五郎『震災誌』

仙田は関東大震災当時の藤沢小学校の校長でした。本書は震災翌年にまとめられた記録集で、旧藤沢町の被害実態および初期の復旧過程について記されています。また、藤沢小学校の教師や生徒たちの記した作文や詩歌を通じて、震災の被害状況や震災に直面した当時の人々の心のありようがうかがえることから、藤沢の震災について考える上で基礎的な資料として活用されています。同書からは11月ごろ

までの行政や軍隊、町内会などの活動を追うことができます。

●岸田劉生『劉生日記』

麗子像で知られる画家・岸田劉生(1891～1929)は大正6年に転地療養のため鵜沼に移り住み、震災の頃は鵜沼松が岡の松本別荘で暮らしていました。

震災時、劉生は家族と家にいましたが、妹の照子が眉毛の部分を負傷した以外は無事でした。しかし一家は家が全潰したため石上の米屋を兼ねた農家の家に避難した後、近隣の物置を借りて住むところを確保しました。劉生が日記を再び記し始めるのは、9月5日からのことになります。

劉生は心情を包み隠さず綴った日記をつけていたことでも知られていますが、不安に揺れ動く心境は当時の人々にとって共通であったと思われ、世相を知るうえでも有益な情報が含まれています。

●高下恭介『高下日記』

高下は現在の大和市の出身で、関東大震災当時は御所見小学校の教師でした。市内北部は残された記録がほとんどないのが実情ですが、高下が残した日記は地域の動きを見るなかで絶好の素材となります。また、御所見小学校に駐屯した軍隊との交流についての記録は、他では得られない貴重なものです。

上記3点以外でも、周辺資料として文書館に所蔵された震災関係資料や写真などを展示しています。是非ご覧ください。(澤内)



展示資料の一部(文書館撮影)。9月27日(金)まで開催しております。

藤沢市内の関東大震災関係碑

番号	地域(番地)	対象物 〔碑面表題〕	総 高	設立年代	設立者・書・ 石工など	碑文の大意
1	宮原1289 寒川社	記念碑 〔大震災記念〕	192 cm	大正14年 9月	在郷軍人	宮原は102戸のうち全潰41戸・半潰61戸。 死者1名・負傷者3名。土地陥没などあり。
2	遠藤2539 御嶽神社	記念碑 〔大震災記念碑〕	196 cm	大正15年 9月	小出青年団遠藤 支部(発起者)	遠藤は228戸のうち全潰173戸・半潰43戸。 死者4名・負傷者31名。翌年1月15日の余 震で再び被害。震災3周年でようやく復興。
3	遠藤4697 笹久保稲荷社	記念碑 〔復興記念〕	191 cm	昭和2年 2月壬午日	撰文：中島政國 (寒川神社宮司)	笹久保は全戸倒壊。死傷者はなかった が、地盤陥没と亀裂で居住不適となり、現 在地に移住。
4	亀井野554 亀井神社	記念碑 〔亀井神社大震災復興記念碑〕	316 cm	昭和10年 4月	書：長谷川周作	亀井野は180戸中全潰113戸・半潰67戸。 死者14名・負傷者100余名。大正14年10 月に神社再建に着手し、翌年4月落成。以 来10余年でようやく復興。
5	湘南台7-201 鯖神社	記念碑 〔用水堰改築記念〕	175 cm	大正15年 11月	撰文：牧野随吉	鯖神社の東側では大震災で境川の用水堰 が破壊されたため、コンクリートで大正15 年2月10日に復旧着手、4月16日竣工。
6	稲荷991 大庭神社	記念碑 〔復興碑〕	270 cm	昭和2年 9月	書：蘇堂鳥海幸 助	藤沢町の倒壊家屋3240戸、死傷者245 名。大庭神社は祭礼中に社殿が倒壊した が、昭和2年9月に再建した。
7	片瀬2-19-27 上諏訪神社	記念碑 〔震災記念碑〕	175 cm	大正13年 9月1日	撰書：諏訪神社 社掌相原政雄	氏子の家は全潰180戸・半潰269戸・全焼5 戸・流出14戸。死者33名・負傷者52名。
8	片瀬3-13-1 龍口神社	記念碑 〔至誠通神〕	275 cm	昭和3年 8月	書：神奈川県知 事山縣治郎	龍口神社は震災で裏山が崩壊したため全 壊、氏子の寄付をもって再建。
9	小塚596 荒神社	記念碑 〔復興〕	125 cm	大正13年 9月8日	氏子中	大震災の記念として建立された。
10	渡内570 日枝神社	記念碑 〔大震災記念〕	60 cm	大正12年 9月1日	石工：石井虎吉	大震災の記念として建立された。
11	藤沢688 鼻黒稲荷・ 砂山観音	記念碑 〔嗚呼九月一日〕	387 cm	昭和4年 9月1日	書：尊光上人	藤沢町は激震で遊行寺諸堂宇と市街地の 大半が倒壊、死者100余名。町民有志で供 養のため建立し、全死者名を刻んだ。
12	鵠沼海岸2-11- 34 湘南オーシャン プロムナード	記念碑 〔東久邇宮第二王子 師正王御遭難記念 碑〕	230 cm	大正12年 9月1日	吉村鉄之助	東久邇宮師正(ひがしくにのみやもろまさ) 王は、大正12年7月19日からの避暑中に 大震災のため圧死。

編集後記 本号は関東大震災の特集となりました。最終頁では市内の震災記念碑を取り上げました。

が、これは身近な場所に残された震災の被害がわかる記録です。ご参考になれば幸いです。(中村)